

2025年度 事業所における自己評価（児童発達支援事業）

公表日：2026年3月31日  
よこはま発達サポートルーム

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点や今後の取り組み
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	100%	0%	事業所内に、保護者様用の観察スペースと、またお子様たちの活動のスペース内に、一人で課題に取り組むエリア、先生と1対1で新しいことに取り組んだりコミュニケーションの練習をするエリア、余暇のエリア（新しい余暇を探したり、活動の切り替えの工夫の仕方などを見つけ）などを設置しています。基準は十分にクリアしていますが、お子様たちが心地よく過ごせるように、エリアの設定の仕方やスペースの取り方などの工夫を、常に心がけたいと思います。
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	100%	0%	有資格の専門職員で構成され、子どもの最大人数4名に対し、職員を3名に加え、保護者対応の職員を配置しています。ただ職員の体調不良等の緊急時等では、親子での通所を基本としていますので、十分に手が回らない時があります。更なる職員の教育、拡充を図ってまいりたいと思っています。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	100%	0%	個々の特性や状態に応じて活動の空間を調整しています。お子様たちが活動と場所の意味を直感的に理解しやすいように工夫しています。お子様は日々成長いたしますし、状態も日々変化します。常にそれらを評価・把握、その時その時適切に対応できるよう引き続き努めてまいりたいと思います。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	100%	0%	セッション前後で清掃と換気を積極的に行っています。ただ補修が必要な箇所等が生じるときもありますので、適宜安全・衛生的な環境を維持できるように対応していきたいと思っています。
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	100%	0%	活動に応じて、スペースを柔軟に使えるようになっていきます。また、集団が苦手なお子様には、個別の部屋をご用意しています。
業務改善	6 業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	100%	0%	毎日の活動後に、その日の評価に基づいたカンファレンスを行い、次回どのような工夫をするのか、そのための準備は何をするのかを検討しています。
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%	0%	自己評価を実施しました。アンケートでいただいたご意見は業務改善の際のヒントとさせていただきます。保護者様には、定期的にご意見やご意向をうかがい、可能な範囲で改善に努めています。
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%	0%	定期的に職員のミーティングを行い、出された意見をもとに改善に努めています。
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	100%	0%	第三者による、TEACCHプログラムのフェディリティーチェックを行いました。今後必要に応じて検討していきます。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	100%	0%	日々、個々の事例については相談できる体制があります。また月に1度のケースカンファレンス、および月に1度の研修の場を、グループ内で協力して確保しています。さらに外部の研修にも法人からの補助を活用して参加しています。
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100%	0%	法人の理念、および世界的に有効性が確認されている支援プログラム（TEACCH）に基づいた当事業所でのプログラムを、ホームページに公開しています。
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	100%	0%	利用開始時には必ず、心理士同席のもとでアセスメントを行っています。また、保護者様との面談を行い、課題を設定しています。療育活動中には一つ一つの課題、一つ一つの場面に対してアセスメント記録を取り、活動終了後に検証、次への修正・改善点などを明らかにしています。それらに基づき、月に1回は定期的面談の機会を設けております。その他、適宜ご相談いただけるようにはしております。
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100%	0%	アセスメント後に会議を開いています。職員間で情報を共有するとともに、お子様の特性に合わせた支援方法を検討する場となっています。
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100%	0%	支援計画に基づいて、活動や課題の設定をしています。一人ひとりのお子様の計画を、職員全員が見られるシステムにしています。
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	100%	0%	個々にフォーマル・インフォーマルなアセスメントを実施しています。よこはま発達グループの他のサービスをご利用されているお子様に関しては、フォーマルアセスメントや診察内容、支援内容等の情報を全スタッフで共有し、包括的に活用しています。

適切な支援の提供	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100%	0%	個々にフォーマル・インフォーマルなアセスメントを実施しています。お子様やご家庭のニーズなどを把握した上で、ガイドラインの支援内容から必要な項目を選択し、課題設定・活動の設定をしています。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100%	0%	毎日の活動後のカンファレンスで、次回もしくは今後に向けた活動の内容について検討しています。カンファレンスには、事業所内およびグループ内の専門職が参加しています。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100%	0%	お子様たちの発達や興味関心、ニーズ等に合わせ、毎回の活動プログラムを立案しています。学習内容に対する理解が定着するように、また、お子様の自信や意欲が高まるように、繰り返し行っていく課題も多くあります。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせさせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	100%	0%	基本的には個別活動を中心していますが、お子様たちのニーズによっては、ゲームやおやつなど、2〜3名で活動する場面も取り入れています。柔軟な対応ができる体制を整えていきます。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100%	0%	療育活動前に必ず打ち合わせを実施しています。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	100%	0%	療育活動中には常にアセスメント記録を取り、終了後には必ずミーティングを実施しています。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100%	0%	療育活動中には一つ一つの課題、一つ一つの場面に対してアセスメント記録を取り、活動終了後に検証、次への修正・改善点などを明らかにしています。
23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100%	0%	概ね6カ月に1度の大きな支援計画の見直しを行っております。また日々の課題設定は日々の評価に基づき修正・変更しています。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100%	0%	必要に応じて、お子様の支援担当者が連携を行っています。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	100%	0%	協力医療機関であるよこはま発達クリニックやその他の外部の関係機関と、情報共有や保育所等訪問などを活用し、連携体制を組めるよう努めています。通所している多くのお子様は特によこはま発達グループ内の他のサービスも利用しており、これらの機関とは日常的にやり取りしています。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか、また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	100%	0%	保育所訪問や保護者様を通して、幼稚園や保育園等での取り組みの情報を得たり、サポートルームでの支援内容を幼稚園・保育園等にお伝えしています。保護者様の同意が得られた場合は、電話やオンラインでの情報共有も行っています。療育内容も家庭、幼稚園・保育園等への汎化を目指したもので、ソーシャルインクルージョンを目指した取り組みです。療育活動で見つけたアイデアを家庭や園、そのほか地域活動にご活用いただけたらと思っています。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	100%	0%	引き継ぎシートを保護者様と一緒に作成し、スムーズに移行できるように努めています。就学後も必要に応じて、学校と連携を取れる体制を整えていきます。
	28	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	25%	75%	療育センターからのスーパーバイズは受けていませんが、国内の方のある支援者から毎月1回定期的にスーパーバイズを受けています。また、グループ内の他の専門職から日々および定期的に助言を受ける機会を設けています。区の子発・放デイ連絡会には、都合がつけば参加しています。
	29	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	0%	100%	こども同士の交流ではありませんが、大学生の職場体験を複数人受けています。
	30	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100%	0%	日々の連絡アプリケーションのほか、親子通所をしてもらっているため、毎回活動の様子をフィードバックしたり、相談をしています。
31	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	100%	0%	療育の基本的考えが、お子様個々人の強みや特性を尊重し、それを家庭や地域生活に汎化できるようにしていくことです。そのために、親子通所をしていただき、そのアイデアを共有したり、ご相談に応じております。また必要な方は、家庭で活用できる支援グッズの作成なども職員と一緒にしております。さらにグループ内の機関とも連携し、希望者には教育や相談の講座を受講できるようにしています。	

保護者への説明等	32	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100%	0%	見学・契約時に書面を用いて説明を行っておりますが、より丁寧でわかりやすい説明を心がけてまいります。
	33	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100%	0%	お子様やご家族の意向に沿った支援計画となるように、作成する際には必ず、アセスメントや保護者様との面談を行っています。
	34	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	100%	0%	作成した計画の読み合わせをしながら保護者様に説明を行い、サインをいただいています。
	35	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100%	0%	親子通所のため、保護者様とも日常顔を合わせ、お話す機会があります。その他、個別の定期面談が設定されています。今後も職員間や関係機関との情報共有も深める中で、ニーズやお気持ちを汲めるように取り組んでまいります。
	36	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	0%	100%	現在は行っていません。今後必要に応じて検討していきます。
	37	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100%	0%	その都度迅速に対応できるよう努めていますが、モニターの配線不備については、対応に時間がかかってしまい大変申し訳ございません。代替案として、お子様の様子をタブレットでビデオ撮影させていただき、保護者様にご覧いただく形で対応いたします。
	38	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	100%	0%	ホームページに毎週、日々の取り組み等についてのコラムを載せています。また、年末年始やお盆の期間の休業については、連絡アプリケーションでお伝えしています。
	39	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100%	0%	鍵のついたロッカーやオンライン上で管理するなど、十分に気を付けて取り扱いをしています。これまで特に問題となったことはありません。
	40	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%	0%	個々のお子様に合わせて、理解できる環境・表出しやすい環境の設定を工夫しています。また、保護者様と情報共有するために、定期面談や連絡アプリケーション等を取り入れています。
	41	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	75%	25%	毎年、地域に勤務されている専門家や幼稚園・保育園等の先生方を対象に、見学会を行っています。事業所の理念や活動内容についてのご紹介をしています。
非常時等の対応	42	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	100%	0%	各種マニュアルを用意しています。ご自宅からご確認いただけるようにするなど共有の仕方を検討していきます。
	43	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	100%	0%	BCPに沿った研修を実施しています。
	44	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	100%	0%	初回アセスメント時、事前プロフィールシートに記載をいただいています。
	45	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	100%	0%	
	46	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100%	0%	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修を行っています。
	47	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	100%	0%	保護者様に安全計画に基づく取り組み内容をわかりやすく周知する方法を工夫していきます。
	48	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100%	0%	毎日の振り返りで、ヒヤリハットについて職員で共有しています。
	49	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%	0%	虐待防止についての研修を実施しています。
	50	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	100%	0%	現在のところ、身体拘束を行っているお子様はいません。